

G7のりもの語り教育 国際会議



2023年4月27日（木）16時
オンライン開催

世界各都市の小学生が、世界の公共交通の現状に目を向け、公共交通の在り方を再発見することで、モビリティ・マネジメントを推進するとともに、諸外国と交流を図ります。

■会議の視聴をご希望される方は、4月20日（木）までに、以下のURLまたはQRコードにアクセスし、視聴登録をお願いします。

<https://forms.gle/6QDhTCF73oumAYc27>



G7 富山・金沢教育大臣会合応援事業

主 催：富山市

後 援：国土交通省、外務省

協 力：富山地方鉄道株式会社



■問い合わせ：富山市交通政策課 TEL 076-443-2195

スケジュール

● オープニング

主催者代表

富山市長 藤井 裕久

● パネルディスカッション

コーディネーター

富山大学 都市デザイン学部

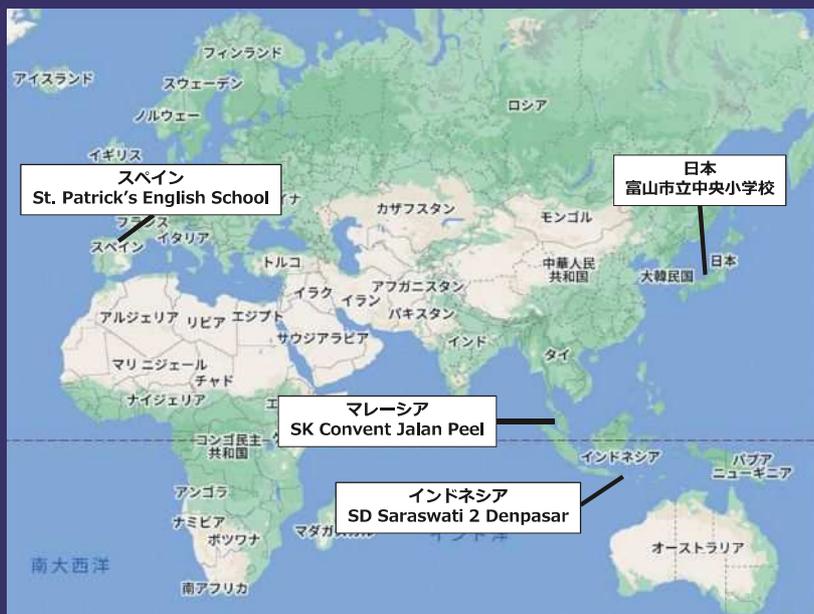
教授 本田 豊氏

● 持続可能な公共交通に関する G7 富山宣言

● クロージング

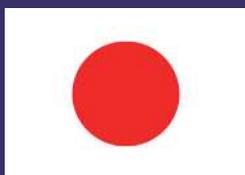
参加都市代表

サン・セバスティアン市長 エネコ・ゴイア・ラソ 氏



参加学校

富山市立中央小学校 / 日本・富山市



2009年ユネスコスクールに加盟。ESD-SDGsの実践を通して、生きる力として4つの力（キャリアプランニング能力「思い描く力」、課題対応能力「成しとげる力」、人間関係形成・社会形成能力「かかわる力」、自己理解・自己管理能力「みつめる力」）の育成を目標としている。

St. Patrick's English School / スペイン王国・サン・セバスティアン市



英語、バスク語、スペイン語の3ヶ国語教育を提供する。生徒、教師をはじめとする学校コミュニティ全体の継続的な人間的成長を推奨している。また、教育界全体の環境に対する意識及び関与度を高め、持続可能性を実現するための代替案を提案することを目的とする環境教育プロジェクト「アジェンダ2030」を実施している。

SD Saraswati 2 Denpasar / インドネシア共和国・デンパサール市



バリ島で最も古い教育財団であるサラスワティ財団の系列校。財団のオーナーは、バリ島の日本人コミュニティと良好な関係を築いており、小学校3年生から6年生までの生徒に日本語の授業を行っている。科学コンテスト、バリ伝統舞踊、空手、マーチングバンドなど、学業面・非学業面のコンテストで優勝しており、2016年には教育機関認定でAランクを取得している。

SK Convent Jalan Peel / マレーシア・クアラルンプール市



宣教師学校として分類される。コラボレーション、コミュニケーション、クリティカルシンキング、クリエイティビティの4Cのコンセプトを挙げており、学業、課外活動、行動の面で優れたレガシーを継承し、明るく快適な環境を促進することによって、バランスのとれた人材を育成することを目標としている。



知ろう! 学ぼう! やってみよう!

SDGs START BOOK

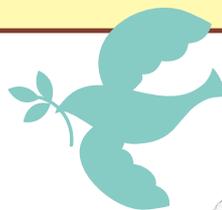
富山市では、SDGsの推進に向けて
さまざまな活動に取り組んでいます。

このスタートブックは、大人や子ども、企業や団体など幅広い方々が、
SDGsを知り、学び、行動に移してもらうために作成しました。

誰一人取り残さない世界の実現に向けて、
まずはできるところからやってみましょう。



誰ひとり取り残さない、 世界の実現に向けて 知ろう! 学ぼう! やってみよう!



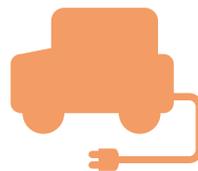
SDGsとは?

今、世界では、環境破壊、気候変動、貧困、人種差別など様々な課題に直面しています。

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、こうした地球規模の課題を解決し、世界を将来にわたって持続させるため、2015年9月に国連サミットで193の全ての国連加盟国が合意し、2030年までに達成すべき課題と、その具体的な目標を『持続可能な開発のための2030アジェンダ※』として採択されたものです。

貧困・飢餓、健康・福祉、教育、気候変動、平和・公正といった17の目標と、より具体的な達成目標である169のターゲットを設け、グローバル化が急速に進む社会、経済、環境上の様々な課題に対して、世界中の国や組織、人々が協力して目標を達成するためのキーワードです。

※行動計画



2030年までに達成を目指す17の目標がSDGs



知ろう! 学ぼう! やってみよう!

SDGs START BOOK

SDGsはなぜ 必要なのか?

新型コロナウイルスの世界的感染でも明らかになったように、世界と私たちの(富山での)身近な暮らしは密接につながっています。

気候変動、貧困、紛争、疫病の感染拡大、環境破壊、富山の経済、富山の子供たちの学校教育など、一見すると別々に見える地域や課題どうしも地球全体のつながりの中で、互いに影響し合う関係にあります。

富山の暮らし、子や孫の暮らしを良くしたい…そのためには自分や富山のことでなく、地域や課題、さまざまな違いを超えた地球全体での統合的な対策が必要になります。

SDGsへの取り組みは、富山・世界のあらゆる人にとって必要なことなのです。

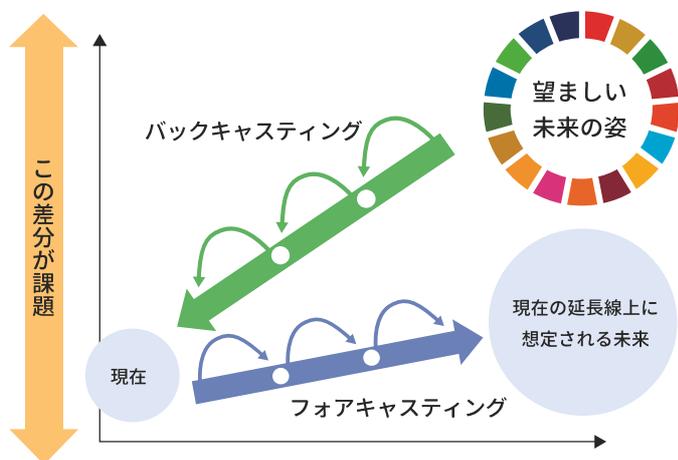
SDGs思考 「バックキャスティング」 で考えよう

現在の状況からできることを目標として立てる方法を「フォアキャスティング」、理想とする未来の姿を描き、その実現のために今やるべきことを考える思考法を「バックキャスティング」といいます。できることをつみ重ねではなく、やり遂げたい目標を具体的に掲げることで、「今するべきこと」が変わってきます。

また、理想を描いたときの現状とのギャップが「課題」です。理想がなければ課題もありません。「課題がない」という現象が起こってしまう原因の1つは「理想がない」からです。

理想を描くことは課題解決の最初の大事な一歩です。

理想を描き、実現するために
今からできることを考えよう



難しくない SDGs

17の目標と169のターゲット

SDGsは17の目標と具体的な達成目標である169のターゲットからなります。さまざまな課題に対し、世界中の国や組織や人々が協力し、目標達成のために行動することが求められています。私たちはこの目標のために何ができるでしょうか。実はちょっとしたアクションで、社会に役立つことができます。この取り組み例を参考に、みなさんも行動してみてください。



取り組み例を参考にして
身近なところから
始めよう

目標	ターゲット	取り組み例
1 貧困をなくそう 	ターゲット 1-1 1-2 1-3 1-4 1-5 1-6 1-7 1-8 1-9 1-10	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>募金をしてみよう</u> ● <u>使わなくなったものを寄付しよう</u>
2 飢餓をゼロに 	ターゲット 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 2-9 2-10	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>必要な分だけ食材を買う</u> ● <u>食品ロスを減らそう</u>
3 すべての人に健康と福祉を 	ターゲット 3-1 3-2 3-3 3-4 3-5 3-6 3-7 3-8 3-9 3-10 3-11 3-12 3-13 3-14 3-15 3-16 3-17 3-18 3-19 3-20	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>歩いて移動してみよう</u> ● <u>交通事故に気を付けよう</u>
4 質の高い教育をみんなに 	ターゲット 4-1 4-2 4-3 4-4 4-5 4-6 4-7 4-8 4-9 4-10 4-11 4-12 4-13 4-14 4-15 4-16 4-17 4-18 4-19 4-20	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>世界の教育状況を調べてみよう</u> ● <u>自分らしく働くことについて考えてみよう</u>
5 ジェンダー平等を実現しよう 	ターゲット 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5 5-6 5-7 5-8 5-9 5-10 5-11 5-12 5-13 5-14 5-15 5-16 5-17 5-18 5-19 5-20	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>仕事や家事の分担を考えてみよう</u> ● <u>LGBTQなどへの理解を深めよう</u>
6 安全な水とトイレを世界中に 	ターゲット 6-1 6-2 6-3 6-4 6-5 6-6 6-7 6-8 6-9 6-10 6-11 6-12 6-13 6-14 6-15 6-16 6-17 6-18 6-19 6-20	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>お風呂やトイレなど水の無駄づかいを減らそう</u> ● <u>台所などから油を流さない</u>
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	ターゲット 7-1 7-2 7-3 7-4 7-5 7-6 7-7 7-8 7-9 7-10	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>電気をこまめに消そう</u> ● <u>木質ペレットなどのバイオ燃料を使用しよう</u>
8 働きがいも経済成長も 	ターゲット 8-1 8-2 8-3 8-4 8-5 8-6 8-7 8-8 8-9 8-10 8-11 8-12 8-13 8-14 8-15 8-16 8-17 8-18 8-19 8-20	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>残業を減らそう</u> ● <u>地産地消をこころがけよう</u>

目標



産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの促進を図る

ターゲット



取り組み例

- SDGsに取り組む企業のサービスや商品を選ぼう
- 橋や道など身の回りのインフラを知ろう



人や国の不平等をなくそう

国内及び各国間の不平等を是正する



- 差別やいじめをしない、させないようにしよう
- フェアトレード商品を買おう（※）
（※）公正な取引のもとで販売されているもの



住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

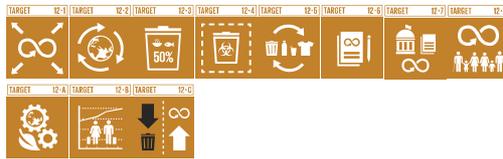


- 地域の清掃や防災活動に参加してみよう
- 路面電車を積極的に使おう



つくる責任 つかう責任

持続可能な消費生産形態を確保する



- 食品ロスを減らそう
- エシカル消費（※）を実践しよう
（※）人・社会・地域・環境に配慮した消費行動



気候変動に具体的な対策を

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

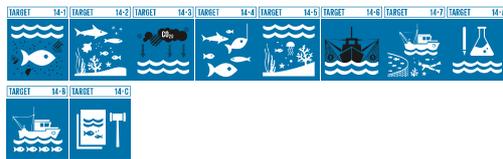


- 電気をこまめに消そう
- エコな電気を使おう



海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



- ビニール袋の使用を減らそう
- ゴミ拾いをしよう



陸の豊かさを守ろう

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



- ごみを分別し、リサイクルを心がけよう
- ペーパーレス化を進めよう



平和と公正をすべての人に

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

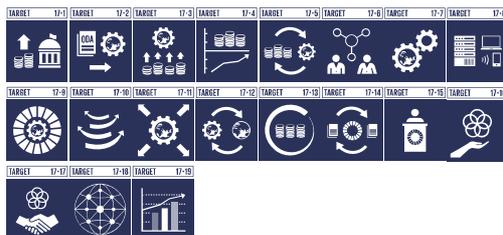


- 選挙に行って投票しよう
- 世界の平和に関するニュースを知ろう



パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



- SDGsのイベントに参加しよう
- SDGsの情報を発信しよう
- SDGsの達成に取り組む企業を応援しよう

Q 169のターゲットを詳しく知りたい人はこちらから →





望ましい未来の姿を目指して



いろいろなカタチでSDGsに
取り組んでいる方々を紹介します！

コロナにも負けない地域経済を構築したい

会社員／高松 朱音さん

息子が小学校に上がるタイミングで、近隣のママたちと共育型学童保育を立ち上げました。当時、働きながら子どもを育てるために放課後の児童が集まれる場所が近隣になく、共働き世帯にとって大きな課題でした。地域の方の紹介で近くのお寺が場を提供してくださり、運営を私たちが担う形でスタート。子ども目線を重視し、親や地域が積極的に関わる場としました。引きこもりだった青年が指導員としていい表情で児童の世話をしたり、大学生の実習の場として活用されるなど、思わぬ波及効果も。その頃はSDGsなんて言葉はありませんでしたが、振り返れば地域づくりや働きがい、ジェンダー平等につながっていますね。

仕事は全国に拠点のある自動車関連企業で、ダイバーシティやSDGs推進を担当しています。SDGsのアクションを深めたきっかけはコロナ禍。人に会えず、漠然とした不安感や得意先の元気のない声に危機感を持ちました。働きがいや経済成長、ジェンダー平等を考えるきっかけになり、SDGsを強く意識、行動することにしました。まず、地元の大学に協力を仰ぎ、学生たちと記念品の製作を企画しました。

打ち合わせの様子が新聞に取り上げられると、すぐに県内の自動車ディーラー様から職場



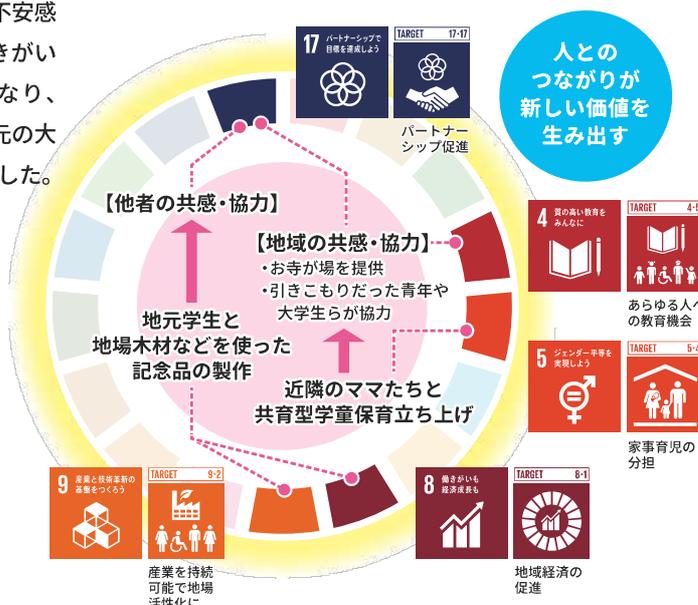
学生とプロジェクトを進める高松さん

北日本新聞社提供



に「一緒に取り組みたい」と連絡が。最終的に地場産品を使ったご当地ノベルティを製作し、現在も連携を継続。今年で3年目になりました。この件は地域連携の好事例として社内で受け止められ、北陸拠点発で中部ブロックへもSDGsの活動が広がりだしています。

SDGsは、興味のあるものと結び付けられるのがいいですね。産学交流などを通し、次世代と将来をどう持続可能なものにしていくか。年齢男女問わずすべての人が活躍できる環境を共創していけたらいいと思っています。



▲高松さんの活動とSDGs目標との関連性を示した図

★キーワード

ダイバーシティ&インクルージョン

多様性と包容性を意味します。性別や体の特徴、生活様式や価値観など多様な背景を持つ人々を認識し、受容することで一人ひとりが力を発揮できる社会を目指すことが重要です。



子ども食堂での食事を楽しむ利用者



社会に貢献したい

カターレ富山／椎名 伸志さん

プロサッカー選手としてカターレ富山でプレーしているかたわら、ボランティア団体「Pono Familie (ポノファミリー)」を立ち上げ、子ども食堂の支援や子どもへの運動支援などを行っています。

団体では、学校になじめない子ども含め小学生らを対象に、鬼ごっこやボール遊びなどを通じて運動の楽しさを知ってもらう機会を設けています。不登校を支援する団体ともつながったので、これから複数のグループと一緒に活動もできればと計画しています。これまでに参加した不登校の子が、サッカーに興味を持ち、試合を見に来てくれたりして、日常の中の活力になっていると実感できました。

子ども食堂は、コンビニで見かけた食品ロスのポスターがきっかけ。日本KFC(日本ケンタッキーフライドチキン株式会社)が県外で調理済み食材を子ども食堂に寄付していることを知り、自分にも何かできないかなと思いました。県社会福祉協議会が橋渡し役になり、同社の食品を子ども食堂に提供することとなりました。

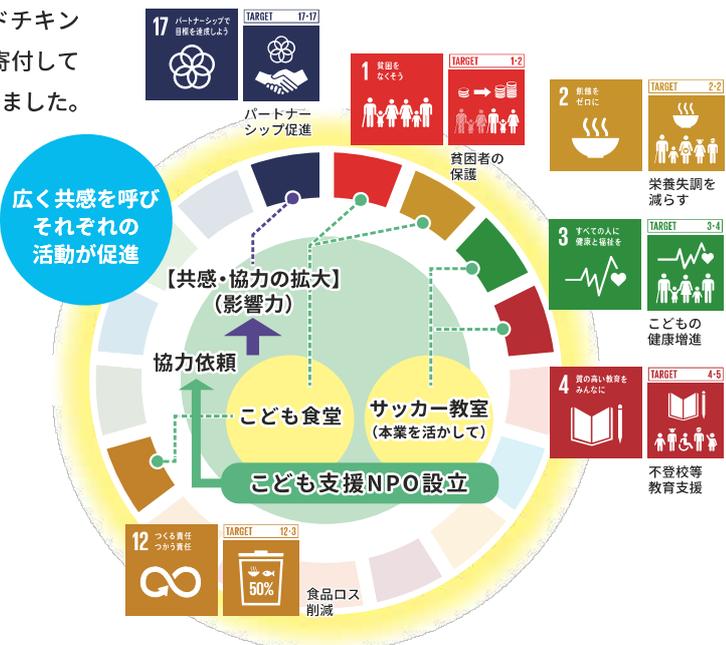
プロサッカー選手ということもあってだと思いますが、こうした活動をしていたことで、



運動を通して小学生らと交流

多くの方に共感いただき、支援を受けることができました。協力してくれた企業が、不登校の子どもたちをスタジアムに招待してくれるなど、個人の活動がチームにもつながっていくのはうれしいですね。

もともと、SDGsの活動を意識していたわけではありません。振り返ってみたら、SDGsの取り組みだったという感じです。以前、蛭川小学校で講演したときに話したのは、「自分が面白いと思い、人が喜ぶことに取り組んだ結果、SDGsにつながっていた。近くにいる友達や町内の人への接し方ひとつで、つながる項目があるかもしれないよ」と。失敗してもいいので、まず何でもやってみてほしいと思います。



▲椎名さんの活動とSDGs目標との関連性を示した図

★キーワード

インターリンケージ 関連性を意味します。SDGsの17の目標はそれぞれ独立せず、互いに関連しています。また、経済・社会・環境の3側面も相互に関連しています。取組がどこまで影響するのか関連性を意識して行動することが重要です。



本業を通じて貢献したい

株式会社タニハタ／谷端 信夫さん

組子建具などを製造するタニハタという会社を運営しています。組子は、釘を使わずに木を幾何学文様に組み付ける伝統木工技術のこと。木を多く使う会社だからこそできることに取り組んでいます。

環境への意識が高まったのは東日本大震災。妻の実家が福島にあり、震災後すぐに義理の両親を迎えに車で向かいました。往復の道中、周囲の景色から自然の猛威とエネルギーの重要性を痛感したのを覚えています。以来、自分たちからまず、クリーンエネルギーの使用を強く意識しました。

私たちの製品は、杉やヒノキが主な原材料。まずはできるだけ国内で、また近い産地のものを使うようにしています。加工時に発生する大量の木くずは、自社で圧縮したペレットにし、冬季使用する暖房の燃料にしています。また使用電力は、水力発電だけを使用する契約にし、太陽光発



電と併用した100%グリーン電力でまかっています。

一方、組子は伝統技術であり、日本らしさを発信するものでもあります。作業場には、海外のお客様がお越しになった際に、技術だけでなく装いからも「和」を感じてほしい。そんな考えから、滋賀の歴史ある織物・高島ちぢみを使った作業着を着用しています。通気性がよく、速乾性もあるので、冷房にかかるコストも抑えられるんですよ。最近では、学生さんが教育旅行の一環で見学に来ることも増えてきました。私たちは組子を軸にいろいろな取り組みをしていますが、自分たちにできることが何か考えていってほしいと思います。



自社工場の屋根に太陽光パネルを設置



作業服にもエコの意識



▲谷端さんの活動とSDGs目標との関連性を示した図

★キーワード
サーキュラーエコノミー 今まで捨てられていたような製品や原材料を「資源」ととらえ、長く使ったり再利用したりして、発生する廃棄物を減らし、持続可能な状態で循環させる経済の仕組みです。

誰一人取り残さない地域社会を パートナーシップで実現したい

特別養護老人ホーム ささづ苑 / 吉野 英樹さん



地域住民たちとのつながりを作る
SDGsフェスタも開催

大沢野地域の特別養護老人ホームささづ苑で、SDGsを推進しています。22歳で福祉の世界に入りましたが、施設利用者が入居する際、本人でなくご家族が申込書面を記入することに違和感がありました。家族様の事情や病気、年齢などの理由はあるにせよ、自身の人生を納得して決めてほしいなど。自己決定は誰しも平等に与えられた権利。ですから「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は、私たち福祉に携わる人にとっても大切な理念だと感じました。

まず、地域のニーズや困りごとを調査することから始めました。「集まりの場が欲しい」とか「災害時が心配」などさまざまな意見が寄せられました。そうして、災害時の対応やどこに避難すればよいか、どんな設備があるかなどをまとめた福祉防災マップを作成し、大沢野・細入地域に無料で全戸(5,384戸)配布しました。子どもたちに発信することも大事だと考え、神通碧小の協力を受け、月1、2回、学校で福祉教育の時間を作りました。民生委員の力を

★キーワード

ソーシャルグッド 世界や地域など社会に対して良いインパクトを与える活動やサービスを指し、主なものにボランティア活動やエシカル消費、寄付などがあります。ちょっとした行動が“ソーシャルグッド”につながります。



eスポーツなどで高齢者と小学生の
つながりの場づくり



▲吉野さんの活動とSDGs目標との関連性を示した図

借り、小学生が一人暮らしの高齢者の家を訪問したり、一緒にeスポーツなどもやりました。

車が手放せない地域ですので、ディーラーさんとサポカー教室を開いたり、マイナンバーやワクチン接種登録の必要性からスマホ教室を開催したりもしました。富山市の推進コミュニケーター養成講座が縁で、入居者のために旅行会社とコラボして「五箇山オンラインツアー」を組んだことも印象深いです。

福祉の分野だけで変えられることもあれば、そうでないこともあります。また、私たちの仕事は高齢者の支援ですが、地域の生活者は高齢者だけではありません。ですので、SDGsをキーワードに学校や他の企業・団体とつながり、連携してきたことは間違いではなかったと感じています。

気軽に参加！SDGs

学ぼう！参加しよう！SDGs

富山市では、SDGsの理解や実践を後押しするために、さまざまな学びの場・つながりの場を提供しています。SDGsは企業、個人関係なく、取り組めるもの。こうした場を活用し、あなたなりのゴールを見つけてみてはいかがでしょうか。



まずは情報をキャッチ！サポーター登録制度

富山市在住や、市内の企業・学校に通う人を対象に、サポーター登録制度を整備しています。サポーターには、市のSDGsに関連するイベントや優れた事例などがメールで配信されます。2019年に始まり、2022年8月には約300の団体・企業と1,000名を超える方が登録するなど徐々に広がりをを見せています。申し込みは『SDGs未来都市とやま』のウェブサイトから、熱意さえあれば誰でもエントリーできます。→詳しくはウラ表紙をご覧ください。



SDGs推進コミュニケーターになろう

2020年から年3回、SDGs推進コミュニケーター養成講座を行っています。地域や職場、学校などで発信できるよう、座学やワークショップを通じてSDGsへの理解を深めるもので、カードゲームで地域課題の解決を目指したり、興味のある分野で何ができるかアイデアを出し合ったりなど回ごとに異なるコンテンツが体験できます。講座参加後のレポート提出で認定が受けられ、これまで約120名が推進コミュニケーターとなっています。



興味に合わせて参加できるSDGsウィーク

富山市では毎年1月に「SDGsウィーク」を設定し、1週間にわたりSDGsに関連するイベントを開催しています。中小企業を対象にしたセミナーや6次産業化を体感できる料理教室、子どもも参加できるカードゲームや映画の上映など、体験できるコンテンツはバラエティに富みます。「軽い気持ちで参加したが、理解が深まった」との声も聞かれ、これから取り組みたい人にはちょうどよいイベントです。



●ウィークのメイン SDGs推進フォーラム

SDGsウィーク期間中には、SDGsにまったく触れたことのない人にも楽しめる「SDGs推進フォーラム」が開かれます。柴田理恵さんや本木克英さんを招いて行うトークイベントや、市長と識者などが富山市の未来を語るパネルディスカッションなど、環境や貧困、人権といったSDGsとは切り離せないテーマを楽しみながら学べる場です。オンライン配信も行っており、遠方にいる人も参加できます。



さらに一步踏み出したい人に

2021年には推進コミュニケーターを対象に、SDGsへの理解をさらに深めたり、より幅広く実践につなげるためのステップアップミーティングを開催。コミュニティづくりや海洋ごみなど特定のテーマで参加者同士意見交換し、新たな発見につなげました。22年からは、アクションミーティングに改称。「教育」や「環境」などの分野を題材に、廃校跡地や環境施設などを訪問しながら課題解決を探るなど、一步踏み込んだ体験ができます。



こんなところにも！ 体感しよう、富山市のSDGs



SDGsの考えは、富山市のまちづくりのいろいろな部分に反映されています。普段の生活に改めて目を向け、気軽にSDGsに乗っかってみるのもひとつです。

歩いて暮らせるまちづくり ～コンパクトシティ～

富山市は公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを進めています。路面電車によりまちの南北を乗り換えなしで移動でき、沿線には図書館や美術館、福祉や教育などの施設を整備しています。また、富山駅の駅前広場や駅北の歩道は段差がないほか、まちなかの様々な場所にベンチやシェアサイクルを設置し、歩きやすい環境整備を進めています。

また、本市では、これまで進めてきたコンパクトなまちづくりの実績を踏まえつつ、健康づくりと融合した歩きたくなるまちづくりを推進するため、健康意識の醸成とともに、日常生活の中での「歩くライフスタイル」を推進しています。スマートフォンアプ

リ「とほ活」は市民の行動変化を後押しする、きっかけづくりのツールとして開発したもので、毎日の歩数に応じたポイントや公共交通機関の利用、イベントへの参加等で貯まったポイントを使って、アプリ内での賞品抽選への応募ができます。また、市民や来街者が快適に歩くことができる環境づくりを目的として、地域や民間企業等と連携しながらベンチの整備を行っており、こうした取り組みが、まちなかの活性化や外出機会の創出、公共交通の利用促進につながっています。これらの取り組みが、マンションやホテルの建設といった市街地への民間投資につながり、市の税収も増加。まちなかや公共交通沿線への転入も増えていま

す。増えた税収は、郊外や中山間地の整備などにも活用されています。

歩いて暮らせるまちづくりは、公共交通を使うことで環境に、歩く習慣づくりで健康に、税収があがることで経済成長につながっています。まずは、気軽に路面電車に乗ったり、まちを歩いてみるのところから始めましょう。



都市の安全にも ～スマートシティ～



北日本新聞社提供

コンパクトシティ施策をさらに深めるために、ICT（情報通信技術）などの新技術を使い、市民生活の質や利便性を高めるスマートシティ施策を進めています。

その中心の一つに市内約100か所に設置されたアンテナから情報を集める富山市センサーネットワークがあります。この通信網を通じて、子どもの登下校路を調査したり、消雪装置の異常を検知したりするなど地域の防犯や構造物の安全、地域の防災に役立っています。沖に浮かべたICTブイを活用して漁場状況などの見える化を図ったり、遠隔のセンサーを活用して畑の温度や土壌水分量を測定し、農作物の管理に活用したりするなど農業漁業の生産性を高める取り組みも始まっています。

こうした技術が何に使えるか、どう使え

ば市民のためになるか、市民やエンジニアがアイデアを出し合う場も設けられており、私たち一人ひとりがまちをどうよくしていくかを考える機会が増えています。

スマートシティが進むことで、効率的な働き方や生産性の向上、都市の安全維持につながるだけでなく、新たなICTツールを用いて行政と市民一人ひとりが直接つながる新たな市民共創や、Web会議システムなどを活用し、近隣だけでなく、大都市圏や海外とも直接つながり、相互に連携しあうような新たなパートナーシップの広がりも期待されています。

安心して子育てできるまち

誰もが安心して妊娠・出産・子育てができるまちを目指し、子育て環境の充実にも力を入れています。

「産後のママ・レスパイト事業」は、産後ケア応援室（まちなか総合ケアセンター内）で生後4か月未満の母子が対象。心身の不調などを抱える母親が安心して子どもを預け、助産師に相談することで、心身の負担や育児不安の軽減につながるよう支援しています。産後の不安を抱えるお母さんのもとに助産師が訪問するサポートも行っており、産後うつなど不調をきたしがちな産後

をフォローします。幼児期にも、保育所などで発熱した園児などを保育士と看護師が施設まで迎えに行く「お迎え型病児保育」を実施しており、親が安心して働ける環境が整えられています。

このほか、子供の成長記録や育児の情報を取得できる母子健康手帳アプリや、AIが24時間いつでも子育てに関する質問に答えるAIチャットボットを導入し、情報発信の充実にも取り組んでいます。

妊娠期から切れ目なく子育て支援を行うことで、経済状態問わず、母子の健康を維持

し、安心して子育てできる環境を整備することは、子どもの未来だけでなく、貧困や健康と福祉に対する支援、ジェンダー平等の面でも重要です。





あなたのSDGsを思い描いてみよう



『SDGs未来都市』とは

日本では、内閣府がSDGsの達成に向けて、優れた取り組みを提案する地方自治体を「SDGs未来都市」、また、中でも特に先導的な事業を「自治体SDGsモデル事業」として選定しています。富山市は、2018年6月15日に「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。

都市の理想を、富山から。



詳しくは『SDGs未来都市とやま』をチェック！

<https://sdgs.city.toyama.lg.jp/>

SDGs未来都市とやま

富山市SDGsサポーター募集

富山市ではSDGsの推進に向けて、ともに取り組んでいただけるサポーター（個人、市民団体・NPO法人・経済団体・企業・教育機関などの各種団体）を募集しています。

SDGsに関心がある、SDGsに関する活動に取り組む意欲がある、または取り組んでいる方や企業・団体は、ぜひご登録ください。サポーター登録された皆さんには、富山市からSDGsに関する情報を配信します。誰もが安心して暮らし、働き、自分らしく未来を築けるまち・富山市を目指して、いっしょに進んでいきましょう。

右の2次元コードからお申し込みください。

企業・
団体の方



個人の方



お問い合わせ先：富山市 企画管理部 企画調整課 TEL：076-443-2010 Eメール：sdgs-mirai-toyama@city.toyama.lg.jp